

# 香取遺産

Vol.103

圓生涯学習課

☎(50)1224

## 山倉の念仏塚 江戸時代の名主の供養塚



▲山倉の念仏塚



▲塚上の石碑

山倉の念仏塚は、山倉地区にある成田の森ゴルフ場脇の市道沿いにあります。一辺7m、高さ3mほどの方形の塚で、塚上には大日如来像を彫った石碑が建っています。

江戸時代前期、山倉村では他領より高い年貢に苦しんでいました。明暦3年(1657)ごろ、さらに増税を課せられて困窮した村民たちは、当時の領主に対し強訴しました。強訴とは、江戸時代、農民がお上に対して順を踏まない違法な直訴(じきせ)をすること、いわゆる百姓一揆にあたります。強訴の内容は、年貢の減免や村役人の交代などが多く、当時では重罪にあたる行為です。

強訴は領主によって鎮圧されましたが、時の名主・長兵衛は強訴を抑えることができなかつたとして遠島の刑に処せられ、その地で生涯を終えました。長兵衛の死後、村民は、自分たちの代わりに刑に処せられた長兵衛を偲び、塚を築いて香華を手向け、念仏

を唱えて供養したと伝えられています。

塚上の石碑には「奉納大乗妙典六十六部日本廻国／享保十四己酉十月吉日／山倉村／荷馬長左衛門」と刻まれています。これは廻国塔あるいは六十六部廻国供養塔という碑で、大乗妙典と呼ばれる法華経を66部書写して、全国66カ所の霊場を巡礼して納めたことを記したものです。碑に刻まれた享保14年(1729)は強訴の約70年後にあたり、長左衛門は長兵衛の子孫といわれています。長兵衛の菩提を弔うために巡礼したのでしょうか。

山倉村の強訴に関する史料は残っていないため、すべて伝承によるものですが、名主など村の代表者が監督不行届の責で処罰されることは、江戸時代では多々あったようです。他に近隣の畑とゴルフ場内にも廻国塔が建つ塚があり、計3基の塚が「山倉の念仏塚」として市の文化財(史跡)に指定されています。